

集落を核としたタマネギ大型機械化栽培体系の推進

タマネギ栽培における作業上の課題は、収穫後のタマネギを圃場から搬出する作業である。普及センターでは、「たまねぎ10万t復活大作戦」と称しモデル育成として共同利用体制が整った集落において、ホイールローダーフォーク等の大型搬出機械の導入を進めてきた。最終的には、コンテナを手で持たない、「人に優しい」大型鉄コンテナの機械化体系の普及を目指す。

内容

搬出機械の性能は、圃場内をパレット運搬ができ、ポリコンテナ4段パレット積み(32ケース)又は大型鉄コンテナ600kgがリフト可能な機械を想定した。機械導入にあたり、高額な機械であることから淡路県民局の「地域の夢推進事業」(現:「ふるさと創生推進事業」)を活用し、集落営農等による共同利用が可能な組織を対象とした。地区の選定は、JA、市、農林水産振興事務所と十分協議の上、地域の現状、周囲への波及性から選定した。

圃場内で取り回しが容易な機種は限定され、50馬力級のトラクタに装着するリアフォークリフトかホイールローダーフォークである。機種選定については、メーカーと交渉し、収穫期間2週間の長期リースで使用した後、決定した。作業には作業日誌の記帳を義務づけた。その結果、搬出作業は2人役で平均2時間/10aで搬出でき、積み込

み作業が多ければ(4人役)30分で行えるなど、貴重なデータが得られた。一集落15haのタマネギ作業をカバーするには作業が集中するため複数台が必要だが、オペレーター方式や品種の分散など集落内の合意も必要となる。

こうしたモデル集落への取り組みから、周辺集落や1ha以上の大規模農家において導入が進みつつある。

普及上の注意事項と今後の方針

導入予定地区では、集落内のタマネギ品種構成やオペレーター等の労働補完の可能性を含め、シミュレーションを十分に行う必要がある。今後、大型鉄コンテナへの移行も含めたさらなるタマネギ産地のレベルアップを目指し農家・集落リーダーを支援する。

岩田 均(南淡路農業改良普及センター)
(問い合わせ先 電話:0799-42-0649)



写真1 集落に導入が進むホイールローダーフォーク



写真2 大型ピッカーによる受託作業も始まる

ひょうごの農林水産技術 No.195 (2016.11) ※本内容は、当センターホームページにも掲載

平成28年11月15日

兵庫県立農林水産技術総合センター (0790) 47-2408